

各科目群の授業科目の概要

総合科目

大学での教育は、狭い範囲の専門知識を習得させることだけを目的としているのではない。幅広い視野、深い思考力、斬新な創造力、そして的確な判断力に基づいて専門知識を主体的に活用できるばかりでなく、幅広い教養をベースに倫理や覚悟を持つ人材の養成を重要な課題としている。

総合科目は、総合基礎科目と総合テーマ科目の2つの科目群から構成されている。学期を追って、系統的な学修ができるように配置されているので、各個人の関心や各学科のどのコースに進路をとるかで補完され、充実した学修が期待できる。専門科目群と有機的に結びつけて欲しい。

地域科目では、本学の立地する神奈川の地域の現状・特色・課題などについて様々な角度から学ぶ。神奈川は世界的な国際都市・観光都市・工業地帯を抱えると同時に、関東の代表的な農・漁・山村を抱える、日本の縮図ともいえる多様性ある地域である。この神奈川についての学びを通して、地域社会の多元性に関する理解を深めるとともに、地域の魅力や課題を発見する力を培う。

総合基礎科目では、大学での学修に必要な不可欠な基本的な要素が集中的に学修できる。学修に必要な不可欠なパソコン操作や情報処理の基礎的能力開発では、グレードをつけた科目が配置され能力に応じた教育が受けられる。大学生としての心構えやマナー、大学で学ぶために必要なノートテイキングや図表の活用といったスキル、教養の基本の一つである資料の読み込み、発表、レポート作成などの力を身につける場が基礎ゼミナールで、ここでの訓練が後の学修の足がかりとなろう。

総合テーマ科目では、経済学、経営学とは異なる学問的視座からさまざまな人間活動に光を当て、複眼的な視点から社会的に提起される問題を学際的に明らかにしてゆく。「問題関心」の高度化を図るべく「心身と社会」「メディアと文化」「人間と環境」「国際化と異文化理解」のテーマごとに「全体の視点」「テーマと関連する問題」「具体的問題」と総体的に深めてゆく。

キャリア科目

キャリア科目は、多様な社会の中で『私』、『私たち』を積極的に位置づけ、そのための現在と未来をデザインする目的で設置されており、[全学キャリア科目]と[学部キャリア科目]に大別される。

[全学キャリア科目]は、全学部共通の内容で、関東学院大学の学生としての現在と未来について考える科目群となっている。詳しくは、「全学キャリア教育科目について」を参照してほしい。

[学部キャリア科目]は、経済学部の学生として身に付けてほしいキャリアスキルを学ぶ科目群となっている。

外国語科目

外国語科目は、異なる価値観を認めながら自分の意見を発表できる人格の形成、及び実用的な外国語運用能力の養成を目的に設置されている。外国語科目は[選択必修英語A][選択必修英語B][選択英語A][選択英語B][英語以外の外国語][外国人留学生選択必修科目]に大別される。

<英語に関して>

[選択必修英語A]は、1年次に配置され、指定クラスで受講しなければならない。卒業までに必ず規定単位数を満たさなければならない。[選択必修英語B]は、2年次に配置され、指定クラスで受講しなければならない。卒業までに必ず規定単位数を満たさなければならない。ただし、[選択必修英語A]および[選択必修英語B]にて再履修となった場合は、[選択英語A]および[選択英語B]で代替することができる。また4単位まで[英語以外の外国語]で充当できる。

[選択必修英語A]と[選択必修英語B]は、習熟度別クラス編成により、無理なく各自の英語力を伸ばすことができるプログラムとなっている。1年次はオリエンテーション期間に実施するプレイスメント・テストの結果に応じて、「フレッシュャーズ・イングリッシュ1・2」または「フレッシュャーズ・イングリッシュ(上級)1・2」と「英会話1・2」または「英会話(上級)1・2」(各1単位、計4単位)を履修する。再履修となった場合は、さらに基礎的なことを学ぶ[選択英語A]の「基本英語1・2」(「フレッシュャーズ・イングリッシュ1・2」の代わり)と「基本英会話1・2」(「英会話1・2」の代わり)で代替する。

2年次は1年次の秋学期の最後に実施するプレイスメント・テストの結果に応じて、「マス・メディアの英語1・2」、「オーラル・イングリッシュ1・2」、「国際関係と地域研究の英語1・2」、「言語と文学の英語1・2」、「ESP2・3」、「English Communication2・3」より4科目(各2単位、計8単位)を履修する。基礎的なことを学びたい場合は、「選択英語A」で代替することができる。ただし、「選択必修英語A」の代わりに履修した科目以外の科目とする。

[選択英語B]は、各自の興味・関心、ニーズに応じて、1年次から4年次まで履修することができる。1、2年次に[選択必修英語A]や[選択必修英語B]と並行して履修し、さらに卒業要件最低単位数を満たした後にも3、4年次

に履修し続けることで、卒業まで語学力を伸ばし続けるよう心がけて欲しい。

＜英語以外の外国語に関して＞

[英語以外の外国語]ではドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、ハンガリー語を学ぶことができる。各々の言語に「〇〇語入門1・2」、「〇〇語会話入門1・2」(各科目1単位)「実用〇〇語1・2」(各科目2単位)がある。初心者には、「〇〇語入門1・2」「〇〇語会話入門1・2」のうち1科目以上を履修した後、「実用〇〇語1・2」を履修する。なお、卒業要件外国語12単位のうち4単位までを[英語以外の外国語]で充当することもできる。ただし、1年次配当分の[選択必修英語A]の4単位については、[英語以外の外国語]で代替することはできない。

＜外国人留学生選択必修科目に関して＞

[外国人留学生選択必修科目]では、卒業要件として規定されている外国語12単位の代替科目として、「日本語A1～C4」(各科目1単位)と「日本語PBL1～4」(各科目1単位)を用意している。ただし、外国語12単位すべてを[選択必修英語A][選択必修英語B]で充当することができる。[選択必修英語A]は[選択英語A]で、[選択必修英語B]は上記以外の[選択英語A]と[選択英語B]で代替できる。

法学科目

「法学概論(国際法を含む)1・2」は他の法学科目への入門の役割を担っている。ここでは、法とは何か、法と他の社会規範の関係、法の体系はどのように構成されているか、法を対象にしていかに学問が成立するか等の基礎的な問題が扱われるほか、実定法の基礎的な知識も講義される。

「法学概論」を除く法学科目は、その名称が示すように、実定法の各分野に照応している。わが国の法の基本的な骨組みをなす6つの法典、すなわち、憲法、民法、商法(特に会社法)、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法のうち、刑事法と手続法以外のものについては、経済学部でも一通りの知識が得られるようになっている。その上、経済活動に深く係わりをもつ行政、労働、経済関係の法規についても学ぶことができる。

これら法学科目の履修については、まず「法学概論」、次に基礎的な法の分野を対象とする「憲法」や「民法」、最後に「行政法」、「労働法」を学ぶことが望ましい。履修にきまった順序があるわけではないので、興味の持てるものから履修するという方法もある。たとえば、市場規制に関する法律を学びたいのであれば「経済法」を履修するのが望ましく、従業員に関する法律を学びたいのであれば「労働法」を履修するという選択もある。また、将来、公務員になりたいのであれば「憲法」や「行政法」を履修するのが望ましい。

《経済学科のコース制について》

経済学科には、専門分野のコースとして産業・金融コース、公共経済コース、国際経済コースという3コースがある。経済学科の学生は2年(3セメスター)進級時にいずれかのコースを選択し、2年(3セメスター)以降4年(8セメスター)まで3年間各コースで勉強することになる。

さらに「特別履修」も選択することができる。「特別履修」選択者は下記の【コース科目】で説明するプレミアム科目を積極的に修得し(発展科目のプレミアム科目から6単位および選択したコースのプレミアム科目から6単位)、専門分野をより深く学んでいくことになる。「特別履修」選択者には、一定の条件を満たせば履修上限単位数の緩和が認められる。また専門ゼミナール選考の際に優遇され、特待生の候補者となる資格を得る。

経済学科目は、コースに沿って配当されている。つまり「大学を卒業したらどのような職業に就くか」を考え、希望する職業に就くためには「大学でどのような科目を・どのような順序で勉強するか」が、はっきりとわかるように科目が編成されている。これによって、学生は目標をもって、基礎的な科目から応用的な科目へ、順序よく体系的に勉強できるようになっている。

経済学科目 <専門分野3コース>

経済学科目は、コース共通科目とコース科目の2つに大別される。その詳細は次のとおりである。

【コース共通科目】

コース共通科目は、2年生になってどのコースを選択するとしても経済学科の学生として必要な科目である。

・入門科目

入門科目は、経済学科に共通する入門的な事項が勉強できる科目である。1セメスター配当の登録必須科目である「経済学入門」と、2セメスター配当の登録必須科目である「プレゼミナール」、さらに1～8セメスタ

一配当の科目として「現代経済1・2」、「経済のための数学入門」が開講されている。

また2～8セメスター配当の科目として「経済統計入門」、「アメリカ経済入門」、「国際交流・協力入門」「ワーク&ライフ・バランス論」などが開講されている。

・基礎科目と発展科目

基礎科目は、経済学の基本的な科目で構成されている。基礎科目(2～8セメスター)に配置されている「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」、「経済政策論1・2」、「経済史1・2」、「統計学概論1・2」、「社会経済学1・2」の10科目は、経済学を専門的に学ぶために重要な科目である。そのため、これらの中から10単位を修得する必要がある。

発展科目(3～8セメスター)は、基礎科目に基づいてさらに専門的に経済学を学ぶものであり、これらの中から18単位(「特別履修」の場合は、プレミアム科目から6単位を含む)を修得する必要がある。

【コース科目】

コース科目には、学生が選択したコースについて系統的に学修し、各コースの教育目標が達成される科目が配当されている。卒業要件としては、選択したコースの科目から16単位(「特別履修」の場合は、選択したコースのプレミアム科目から6単位を含む)を修得する必要がある。

各コース科目および上記【コース共通科目】で説明した発展科目には、プレミアム科目が配置されている。プレミアム科目はより専門的な内容を扱う科目であり、学生はプレミアム科目を履修することで科目のテーマについてより深く学ぶことができる。

《産業・金融コース》

企業の生産活動と市場に関する総合的な経済学の専門知識と分析の能力をもつ人材を育成するコースである。

経済はモノ(財)とサービスを生産する活動を基礎として成り立っている。このコースでは、生産活動をするための手段である労働力と資本、生産活動の資金調達に関する理論、そして、企業の集合体である産業や中小企業の実態や課題を学ぶ。また、近年重要性を増している情報の役割と経済との関係について理論と分析の方法を学ぶ。

コース科目として、3～8セメスターに「産業論1・2」、「中小企業論1・2」、「経済地理1・2」、「産業組織論1・2」、「金融論1・2」、「農業経済論1・2」、「情報経済論1・2」、「企業金融論1・2」、「国際金融論1・2」、「労働経済論1・2」、「職業指導1・2」などが配置されている。プレミアム科目として、4～8セメスターに「少子社会の経済学」、「情報と経済活動」、「経済記事を読む」、「人文地理学1・2」、「日本経済のマクロ分析」などが配置されている。

このコースが想定している進路としては、金融や製造業などのさまざまな分野の民間企業などがある。

《公共経済コース》

公共部門の役割を学び、公務員などに求められる政策立案能力をもつ人材を育成するコースである。

今日の経済では、政府(公共)部門もきわめて大きな比重を占めている。このコースでは、政府の経済政策、財政政策と地方自治、地方財政、さらに私たちの生活に密接に関係している福祉、保険、医療などを勉強する。

コース科目として、3～8セメスターに「財政学1・2」、「地方財政1・2」、「公共政策1・2」、「社会保障論1・2」、「環境経済学1・2」、「公共経済学1・2」、「交通論1・2」、「労働経済論1・2」、「地域経済論」、「自然地理学1・2」、「グローバル時代の教育」が配置されている。プレミアム科目として、4～8セメスターに「少子社会の経済学」、「情報と経済活動」、「人口減少と都市経済」、「都市と公共政策」、「哲学概論1・2」、「倫理学概論1・2」、「日本経済のマクロ分析」などが配置されている。

このコースが想定している進路としては、公務員(行政職、教員、消防や警察など)、公的機関、NPO(非営利組織)、福祉などがある。

《国際経済コース》

国際的な視野をもち、世界で活躍できる人材を育成するコースである。

経済のグローバル化の進展によって、国際的な視野から経済現象をとらえることが切実に求められている。このコースでは、国際貿易と国際金融のほか、世界の各地域経済の実態や途上国における開発経済、また、世界経済と日本経済とのかかわりなどを勉強する。このコースには、実習をもって国際交流を学ぶ機会が提供されている。

コース科目として、3～8セメスターに「国際経済学1・2」、「国際金融論1・2」、「世界経済論1・2」、「国際貿易論1・2」、「アメリカ経済論1・2」、「ヨーロッパ経済論1・2」、「アジア経済論1・2」、「開発経済学1・2」、「中国経済論」、「東アジア関係論」が配置されている。プレミアム科目として、4～8セメスターに「国際実務実習」、「国際協力の現場」、「経済記事を読む」、「国際政治経済分析」、「経済統合論」、「国際財政論」、「国際マクロ経済学」が配置されている。

このコースが想定している進路としては、製造業や商社などの民間企業、外資系企業、国際機関や非営利団体(国際NGO/NPOなど)などがある。

プレゼミナール

プレゼミナールは社会連携を取り入れての社会課題解決型の形式で1年次秋学期に開講される、少人数のゼミナール形式で行われる専門科目である。所属するプレゼミナールは、基礎ゼミナールと同じ曜日・講時に開講されているクラスとなる。

プレゼミナールでは、学生を複数のグループに編成し、グループ単位でのテーマ学習を行う。そして、学習の成果を発表する。発表会はプレゼン大会の形式で開催される。また、複数のプレゼミナールが合同で開催する。したがって、これら発表会へ参加する準備もプレゼミナール内で行う。学習のテーマや参加する発表会の形式、どのプレゼミナールと合同で行うかなどは、所属するゼミナールによって異なる。

プレゼミナールの目的は、上記の発表会に参加することと同時に、2年次秋学期からのゼミナールでの学修を踏まえ、所属する分野の専門教育の基礎を学ぶことにある。また、プレゼミナールでは、平常点が評価の前提となるので、発表会も含めて毎週の授業に出席し、活動に積極的に参加することが強く求められる。

専門ゼミナール

ゼミナールは、少人数の学生に限定して行われる演習である。学生は2年次（3セメスター）春学期に各ゼミナールの募集に応募し、卒業までの期間、いずれかのゼミナールに継続して所属する。ゼミナールは自分の希望するゼミナールを選択できる。しかし、ゼミナールには定員（15名程度）があり、希望者が多い場合には選考がおこなわれ、所属を認められない場合もある。選考は面接の他、1年次の成績などが参考にされる場合もあるので、1年次の科目履修は十分に注意する必要がある。

ゼミナール1は登録必須科目であり、必ず履修登録をしなければならない。つまり、必ずいずれかのゼミナールに所属しなければならない。もし、選考によって所属ゼミナールが決まらなかった場合は、各自の希望を踏まえた上で抽選により所属先が決められる。

ゼミナールでは学生は週1回のゼミナールに参加して、テキストを読み、またそれぞれの課題について資料の整理や分析を行い、4年次には卒業論文作成をするなどの活動を行う。ゼミによっては各種のゼミナール大会に参加する。このようにゼミナールには2年半所属し、自分の興味に応じたより深い勉強をおこなう場であることから、経済学部における教育・研究の中心的存在であるといえる。

履修科目決定モデル

1. はじめに

大学では自身の学びたい分野・科目を選択し、かつ4年間で経済学部が定める卒業要件を満たせるよう計画的に履修する必要があります。1年次においては、以下のモデルおよびシラバスを参考に時間割を組み立ててください。これはあくまでもモデルですので、絶対にこの通りに履修しないとイケないわけではありません。

2. 経済学科の履修科目決定モデル

(1) 履修科目決定のポイント

- ①春学期は1セメ配当科目および1-2セメ配当科目、1-8セメ配当科目、秋学期は1-2セメ配当科目および1-8セメ配当科目、2-8セメ配当科目を履修できる
- ②春学期、秋学期とも最大で22単位まで履修できる
- ③クラス指定された科目（必修科目、登録必須科目）を軸にする

クラス指定された科目は、必ず履修しなければならない科目です。KGUポータルへログインし、画面上部メニューから『履修時間割』を確認すると各自のクラスが記載されています。クラス指定されている時間帯で、別の科目に履修を変更することはできません。

20xx 春学期時間割		春学期		秋学期		
	月	火	水	木	金	土
1	XGUキャリアデザイン入門1		経済学入門A			
2				基礎ゼミナール		
3				健康スポーツ1		
4		英会話1		フレッシュヤーズ・イングリッシュ1		
5						

<科目の名称について>

社会経済学 1 A
科目名 クラス名

- ④専門科目は、入門科目、基礎科目を優先する

専門科目については、1セメ（1年次春学期）は入門科目を、2セメ（1年次秋学期）は基礎科目、入門科目を優先して履修します。

- ⑤総合科目は1セメに総合基礎科目、2セメに総合テーマ科目を優先する

卒業要件を満たすためには、専門科目だけでなく、総合科目も履修しなければなりません。1セメは総合基礎科目を、2セメは総合テーマ科目を優先的に履修すると良いでしょう。また1セメから履修できる総合科目として、神奈川について理解を深める地域科目もあります。

⑥春学期をベースに秋学期を考える

春学期は、自らの興味関心を考えつつ、クラス指定科目を軸に、その前後の時間帯に、専門科目や総合科目を配置しながら時間割を組みます。秋学期は、春学期に履修した科目のウラにあたる科目を選択すると時間割を組みやすいといえます。春学期に履修した科目の担当者は秋学期も同一曜日講時に別の科目を担当していることが多いので、その科目を履修すると良いでしょう。例えば、春学期に水曜5講時の「現代経済1C」を履修した場合、秋学期も同じ水曜5講時の「現代経済2C」を履修するといったイメージです。もちろん、春学期、秋学期で全く別の科目を履修しても構いません。例えば、春学期に水曜5講時の「現代経済1B」を履修して、秋学期は木曜3講時の「現代経済2A」を履修するといったことも可能です。

⑦1日の履修科目数は3科目前後にする

大学の授業は、予習復習を前提に成り立っていますので、1日にあまり多くの科目を履修するのは好ましくありません。クラス指定科目の配置にもよりますが、1日3科目程度を目安にすると良いでしょう。

(2) 履修科目決定ステップ

①春学期

〔ステップ1〕クラス指定科目

経済学科は次の科目がクラス指定されています。これらの科目は指定されたクラスの履修登録を行わなくてはなりません。指定された全ての科目を履修登録すると、春学期に7科目9単位の履修科目が決定します。

【春学期】 合計9単位

- ・「健康スポーツ1」 (1単位)
- ・「英会話1」または「英会話(上級)1」 (1単位)
- ・「フレッシュャーズ・イングリッシュ1」または「フレッシュャーズ・イングリッシュ(上級)1」 (1単位)
- ・「基礎ゼミナール」 (2単位)
- ・「KGUキャリアデザイン入門1」 (1単位) および「KGUキャリアデザイン入門2」 (1単位)
※全7回科目ですので、注意しましょう。
- ・「経済学入門」 (2単位)

〔ステップ2〕キャリア科目

KGU データサイエンス概論の履修を推奨する。

【春学期】

- ・KGU データサイエンス概論 (2単位)

〔ステップ3〕専門科目の入門科目

次に、1セメスターから開講されている「入門科目」を選択しましょう。経済学科目ではコース共通科目の「入門科目」として「経済学入門」以外に「現代経済1・2」および「経済のための数学入門」の3科目が開講されています。また、法学科目にも「法学概論(国際法を含む)1・2」および「憲法1・2」があります。「現代経済1」「経済のための数学入門」「法学概論(国際法を含む)1」「憲法1」から、コース共通科目の「入門科目」を中心に2科目を選択してみましょう。

〔ステップ4〕総合基礎科目

総合科目の「総合基礎科目」の中で興味のあるものを、春学期に開講されている科目から3科目を選択してみましょう。今後の学習を円滑に進めるための科目が必要な人には「文章を書く」や「パソコン入門」があります。

※上記〔ステップ4〕までで、春学期21単位が決まりました。残る1単位は、大学生らしく第二外国語に挑戦してみてください。

ちなみに、春学期に履修できる1単位科目には、英語以外の外国語の「各国語(ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/ハンガール)入門1」「各国語(ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/ハンガール)会話入門1」があります。

なお、クラス指定科目の配置の関係で、実際にはここまでで21単位分履修できないこともあるかもしれません。その場合は『履修要綱』の「授業科目区分表」を見ながら、1年次に配当されている科目から何を履修するかを考えてください。

②秋学期

〔ステップ1〕 クラス指定科目

経済学科生は次の科目がクラス指定されています。これらの科目は指定されたクラスの履修登録を行わなくてはなりません。指定された全ての科目を履修登録すると、秋学期に4科目5単位の履修科目が決定します。

【秋学期】 合計5単位

- ・「健康スポーツ2」 (1単位)
- ・「英会話2」または「English Communication 1」 (1単位)
- ・「フレッシュャーズ・イングリッシュ2」または「ESP 1」 (1単位)
- ・「プレゼミナル」 (2単位)

※英語上級クラスの学生は、「English Communication 1」「ESP 1」を履修登録します。

〔ステップ2〕 専門科目の基礎科目（選択必修科目）

次に、「基礎科目」を選択しましょう。「基礎科目」にある「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」、「経済政策論1・2」、「経済史1・2」、「統計学概論1・2」、「社会経済学1・2」、の10科目（すべて2単位）の中から、卒業までに10単位を修得しなければなりません。したがって、これらの科目は他の科目に優先して履修する必要があります。1年次これらの科目のうち、「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」、「経済政策論1」、「経済史1」、「社会経済学1」、「統計学概論1」から4科目を選択してみましょう。

〔ステップ3〕 専門科目の入門科目

次に、「入門科目」を選択しましょう。経済学科目ではコース共通科目の「入門科目」として「経済学入門」以外に「現代経済1・2」「経済のための数学入門」「経済統計入門」「国際交流・協力入門」などが開講されています。また、法学科目にも「法学概論（国際法を含む）1・2」、「憲法1・2」があります。これらの科目の中から2科目を選択してみましょう。

〔ステップ4〕 総合テーマ科目

総合科目の「総合テーマ科目」の中で興味のあるものを、秋学期に開講されている科目から2科目を選択してみましょう。

※上記〔ステップ4〕までで、秋学期21単位が決まりました。残る1単位は1セメスターに第二外国語を履修した場合は、同科目の2を履修しましょう。第二外国語の履修をしていない場合は、「キャリアスキル〔数学〕1」「キャリアスキル〔言語〕1」を履修するとよいでしょう。

ちなみに、秋学期に履修できる1単位科目には、学部キャリア科目の「キャリアスキル〔言語〕1」と「キャリアスキル〔数学〕1」の2科目と、英語以外の外国語の「各国語（ドイツ語／フランス語／ロシア語／スペイン語／中国語／ハンガール）入門1・2」「各国語（ドイツ語／フランス語／ロシア語／スペイン語／中国語／ハンガール）会話入門1・2」があります。

なお、クラス指定科目の配置の関係で、実際にはここまでで21単位分履修できないこともあるかもしれません。その場合は『履修要綱』の「授業科目区分表」を見ながら、1年次に配当されている科目から何を履修するかを考えてください。